



# ゆうすい

嘉島西小学校 学校便り

令和4年10月7日  
文責：校長 江上 知男



## 学びは「机上」だけではない！

10月5日(水)は、全校集会でした(…とは言っても「リモート」でしたが)。ひと月に1回、全校児童に直接話す時間をいただいています。

今日は、「6年生が修学旅行に行く紹介とその目的」を話した後、4年生横のトイレの写真(上)を提示し「これを見て、とても気持ち良くなりました。そして、とても嬉しくなりました。なぜでしょう？」と問いかけをして、話を終えました。その後、担任の先生方が学年に応じて考えさせてくださいました。すると、一部の上級生が自分の考えを文章にして、私に伝えてくれました。その「ほんのほんの一部」を、短くまとめてみました。

- きれいに並んでいると嬉しくなる理由は、「きれいだと心がスッキリする」から。毎日が嬉しく楽しい生活を送るには、一人一人の気遣い(思いやりの心)が大切だと思った。
- スリッパは気が向いたら並べる程度だった。散らかっていても「何かと理由をつけて並べない」ことが多々あった。並べようとする意識は「次の人への配慮」なので今後大切にしたい。
- 校長先生は4年生の「心やさしさ」に気付いて気持ちよくなったと思う。私も「見えないやさしさ」に気付いて、それをまねしたいと思う。自分のことだけでなく、人のことに目を向けたい。
- 並んでいると、きれいで気持ちが良いし、次に使う人が「自分もきれいにしないといけない」という思いになる。それは、スリッパだけでなく修学旅行の集団行動につながると思う。
- 一人一人が小さいことでも意識していくと、周りがよく見えて、集団行動、チームワーク、友達との関係が良くなる。そして、みんなの心が通じ合って、良いクラス、学校になっていく。

私は、子どもたちの行動を見たり考えを読んだりして、「学校は授業での学びが当然大切だけど、それ以外の時間に人と関わったり体験したりすることも大切だ」とつくづく思います。教室の中はまさに「実社会の縮図」です。人数分の「個性」があります。得意なことも違います。考え方や感じ方も違います。その中で、いろんな問題を克服しながら「自分だけでなくみんなが尊重される生活」を体験します。もちろん、それは「将来みんなが幸せに生きるために必要なこと」だからです。

上級生の考えを読んで、「将来につながる力が確実に高まっている」と心から嬉しくなりました。

## 「真の国際人」の条件とは？

野茂英雄(のもひでお)という野球選手をご存知ですか。野茂さんは、現在大活躍している大谷選手などの「道を切り拓いた選手」と言えます。

野茂さんがアメリカに渡ったのは、25年以上前のことです。「日本人がメジャーで成功するのは無理だ」という雰囲気の中、野茂さんは失敗を恐れず挑戦し続け、結果的に数々の記録を打ち立て、アメリカ人の記憶にも残る選手となりました。その勇気や功績が今でも大きく讃えられています。アメリカに渡る前の野茂さんに、ある記者が「英語が話せなくて、アメリカの生活に心配はありませんか？」と聞いたそうです。すると、野茂さんは「英語を話しに行くのではなく野球をするために行くのです」と答えた逸話が残っています。野茂さんにとって「どこに行くか」ではなく「何をするか」が大切だったのです。

これからの国際化社会では、「英語力はますます重要である」と強調されています。しかし、野茂さんのコメントから「国際人=英語が話せる人」という理解は、短絡的だと気づかされます。英語は、日本人以外の人と意思を疎通するツール(手段)に過ぎません。「英語で伝える力」は重要ですが、「何を伝え合うのか」はもっと重要です。子どもたちには、真の国際人になるためにも、英語の力だけではなく、「相手に伝える中身を充実させるために学び続ける人」であって欲しいと思っています。

6年生は、コロナ禍をくぐり抜け、7日~8日に修学旅行に行きます。「平和を学ぶことは、国際人としての素養を身につける絶好の機会」と考えています。6年生の成長が楽しみです。…あとは天気です！